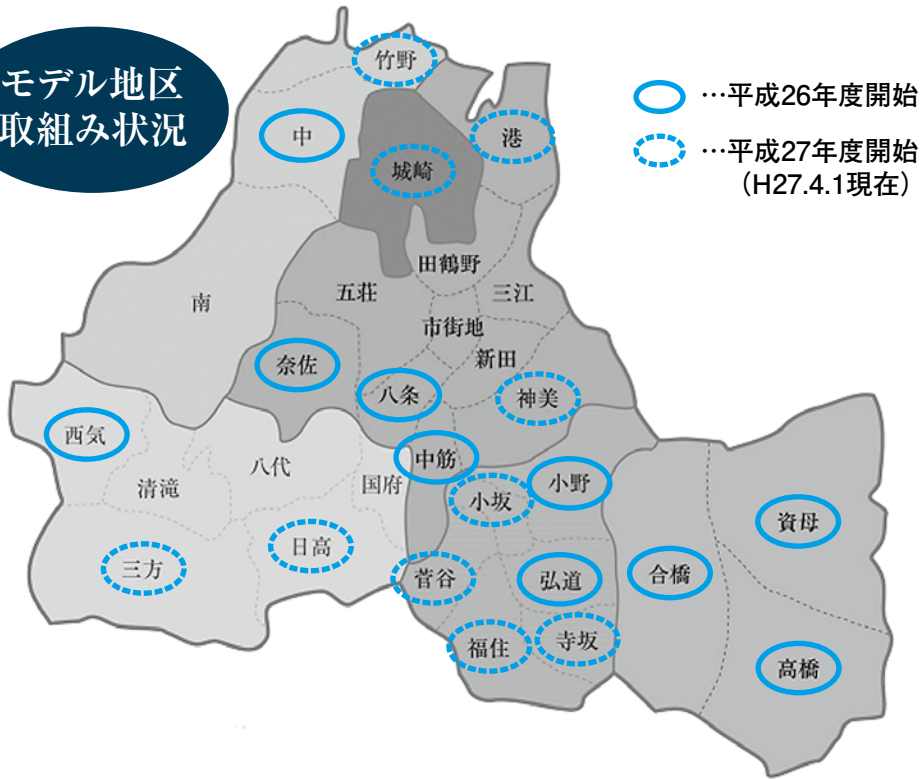


モデルの取組み地区を拡大

モデル地区 取組み状況



市では地域を守り将来につなぐため、本年2月に「新しい地域コミュニティのあり方方針」を策定し、地域づくりを進めています。

「自分たちの地域は、自分たちが守る」ために、自ら考え、自ら行動する取組みです。地域と行政が協働し、仕組みをつくり上げていきます。

昨年度は、地区公民館の区域を単位に10のモデル地区を定め、それぞれが活動を開始しました。

本年度は、さらに10地区がこのモデルの取組みを実施します。平成29年4月のコミュニティセンター(仮称)設置に向け、地区が動き出しています。地区の皆さんが主役の取組みです。

モデル地区では、3年間で次の三つの新たな仕組みづくりを進めます。

その1 新しい地域コミュニティ 組織の立ち上げ

新しい地域コミュニティ組織は、各行政区の活動を基本としながらも、地区全体に目を配り、支え合う仕組みをつくりまします。

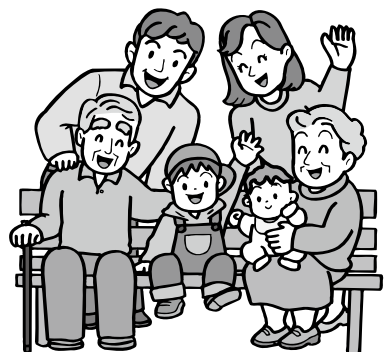
また、地区の宝や誇りなど、良い点を外へ発信する役割を持ちまします。

組織の立ち上げには、まず、従来の物事の決め方など、その地区のやり方を基本に、新たな体制はどうあるべきかを地区住民で検討します。その中から、どのような組織体制が良いのかが見えてきます。

しっかりと議論して、地区をより良く運営できる組織を設立しましょう。持続可能という点も大切です。みんな



▲地域に合った進め方を検討する(三方地区検討委員会)



なで支え合う仕組みを考えましよう。



▲テーマ(部門)ごとにワークショップ。計画づくりの第一歩を(弘道地区ワークショップ)



▲きれいに咲いた桜に集う。笑顔があふれ、手づくりのバザーや催しを楽しむ(奈佐地区観桜の会)



▲旧八条小学校にまつわる歴史や思い出の写真で、地域に対する誇りや愛着を再確認(八条地区ふれあいイベント)

その2 はじめの

第一歩計画の作成

新しい地域コミュニティ組織が活動するには、計画が必要で、地区住民が目標を共有し、同じ方向に向かっていくための地域づくり計画です。しっかりと計画がすぐにつくれるわけではありません。まずは「これならできるのでは」といったことをまとめた簡易な計画『はじめの第一歩計画』を作成します。

まちむらたんけん(まち歩き)やワークショップなどを

その3

地域づくり機運の高揚

自分たちの地域は、自分たちで守る。言うのは簡単ですが、一朝一夕にはできません。地域の皆さんが「よし、やろう!」と参加することが地域づくりには不可欠です。そのためにも、地区全体でその

通じて、みんなで地区の課題や魅力を整理して、計画づくりの資料にしましょう。

ぜひ、高齢者から子どもまで、男性も女性も参加し、それぞれの目線で地区のこと、将来のことを語ってください。

機運を高めましょう。

住民同士の交流を深めたり、顔見知りになることはとても大切です。従来から、地区を挙げての催しを行っているところは、コミュニティづくりをさらに意識して取り組ましましょう。新たな催しに取り組みむ場合は、皆さんの手づくりで進めてみましょう。楽しい内容の催しにすること、多くの方に関わってもらうことが重要です。

その他にも、機運を盛り上げて、地区を知る絶好の催しとして、まちむらたんけんがあります。また、市の出前講座

地域を守るということ

地域は、すぐに良くなったり大きく変化したりしません。しかし、地域を取り巻く環境は、刻々と動いています。

ある日、気が付くと「商店がなくなった」「バスが走らなくなった」「隣近所に誰が住んでいるか分からない」...

私たちは、自分が住む地域を将来の世代に渡さなければなりません。良い状態で渡すも、悪い状態で渡すも、今を

生きる私たちの行動にかかっています。

国(総務省)も昨年度末に、「過疎地域等における今後の集落対策のあり方に関する提言」をまとめました。そこでは、小学校区などのまとまりでの地域づくりに注目しています。まさに、豊岡が目指そうとしている姿です。

答えがあるわけではなく、試行錯誤しながらの取り組みです。しかし不可能ではありません。地域住民が支え合えば必ずできます。地域と行政がパートナーとして、豊岡の将来に向けた地域づくりを実現します。

**地域
コミュニティ
地区(公民館単位)の取組み**

《問合せ》コミュニティ政策課 ☎21-9020